



# “学びの森”だより

## あんな大人になりたい



トヨタ自動車東富士研究所のエンジニアの方々と、市内の中学校の生徒が、「未来・働く・幸せ」について直接対話をする機会を設けることができました。1グループ生徒3・4人に対し1人のエンジニアの編成で、より身近で切実感のある対話となりました。

後日、印象に残った二人に、調査員による突撃インタビューを試みましたので紹介します。

T 「お二人とも、対話をしていて一番感じたのは、何ですか？」

S1 「エンジニアの方が『炭治郎（鬼滅の刃）は、禰豆子（ねずこ）をどうしても助けたいと思ったんだよね。』と話し始めたので、びっくりしました。」

T 「鬼滅の刃ですか、私も大好きです。興味をそそるし、思わず聞き入っちゃいますよね。」

S1 「『炭治郎は目的を持ってたから一生懸命がんばれたんだ。やりたいことを見つけることは大切なんだ。』と話してくれました。とっても分かりやすく、なるほどと思いました。」

T 「確かに、分かりやすい話が一番ですね。納得ですね。」

S1 「私も、日々の生活の中で、本気でやりたいことを見つけようと思いました。そして、自分から、本気で役立つ仕事を見つけたいと思いました。」

T 「そうなんだ。すごいですね。でも、生きてると辛いときもあるでしょ。」

S1 「私もそうってお母さんに質問すると『辛いときは、だれかと相談するといいんだよ。』と、優しく答えてくれました。私はお母さんと話しているとポジティブになれるんです。コミュニケーションは、とっても大事だと改めて感じました。だから、今は、文化祭や体育祭に向けて、みんなとおしゃべりしながら、がんばっていきたいです。」

S2 「ぼくが一番感じたのは、エンジニアの方が、本当に楽しそうに話してくれたことです。」

T 「楽しい話ですか。いいですね。元気になるよね。楽しいことが一番だよ。」

S2 「車が本当に好きで、こんなに楽しそうに話せるなんて、いいなと思いました。」

T 「エンジニアの方が『もちろん大変なこともたくさんある。でも、一つの目標に向かって作り上げていくことは本当に楽しい。』と話していましたよね。その点どうですか？」

S2 「確かに、仕事となると責任もあり、いやだと感じてしまうこともあると思いました。だからこそ、純粋に楽しめることを見つけることが大切だと感じました。」

T 「あなたも、やりたいことを見つける、それが大事だと感じたのですね。なるほど。」

S2 「そのためには、ぼくは、まず、一人でがんばることだと思います。たとえ面倒くさくても、前向きにがんばっていれば、仲間がどんどん増えていきそうです。そうすると、大変であっても、本当にやりたいことが見つかり、もっともっと楽しくなるような気がしました。」

T 「めっちゃくちゃポジティブですね。ところで、どんな大人になりたいですか？」

S2 「ぼくも将来、エンジニアの方のように生き生きと話ができる大人になりたいです。」

二人から、「あんな大人になりたい。だから今、がんばって生きていきたい。」という思いが、

ひしひしと伝わってきました。社会でがんばっている人と直接語り合うと、すばらしい実感が得られるのかもしれないね。  
ご協力いただいた方々に感謝です。  
ありがとうございました。



## にご だくてん 心の濁り 濁点

雨の日のことでした。学校に来ると1年生が朝顔に水やりをしていました。さて、あなたなら、この子に、どんな声かけをしますか？

- ①雨が降っているから、お水をやらなくても大丈夫だよ。
- ②雨が降っているよ、お水はどうか？
- ③えらいね。でも、よく考えてみようか？



私は、雨に少しでも濡れないようにという思いも込めて、①でした。もちろん、先生に言われたので、その場は、水をやるのをやめました。しかし、ちょっと寂しげな顔をしていたような気がしました。優しく伝えつつもりでしたが、雨の日に、水をやる必要がないことを、理解してもらえなかったのかとも思いました。とても気になりました。

では、②や③だったら、この子は寂しげな顔をしなかったでしょうか。分からなくなりました。数年たち、修行中教えていただいたことがよみがえりました。そして、はっとしました。私は、頭だけで考えた教師になっていたことに気づきました。「雨がふっているから、水をやらなくて、水はたくさんあるよ。」と、理科的に理解させようと、必死になっていたのです。しかし、この時、この子はどんな気持ちだったのか、そこまでは考えてはいませんでした。子ども心に、本当に寄り添っていませんでした。子どもは、朝顔が元気に育つように、雨にもかかわらず、けなげに水をやろうとしていたのかもしれない。朝顔に、「大きくなあれ。」と声をかけていたのかもしれない。そう思うと、切なくなりました。ごめんなさい。

修行中教えていただいたことは、「(字の)濁点とは、心の濁りを表す。」です。どんなに強い意志(子どもたちのために、教えたい)も、自分の思いだけを貫き通そうとすれば、心が貪欲と化し、「意思：いし」も濁って「意地：いじ」となります。

また、どんなに「徳：とく」(植物の生長には、水が欠かせないものである。しかし、雨のときはやる必要はない。)を言っても、子どもにとっては「毒：どく」(私は、そんなつもりでやってはいないのに、先生は私の気持ちを分かってくれない。)となりがねません。

さらに、意味が理解できない子や、それでもやり続ける子どもに対して、「どうして分からないの、まったくもう。」と、「口：くち」から「愚痴：ぐち」が出てしまいそうです。どんな徳であっても意地を通せば毒と化し、最後は口から愚痴が出てしまえば、それはそれは恐ろしいことです。

さて、ではどんな言葉かけがよかったでしょうか。「きっと、きれいな花が咲くよ。」と、思いを共有し微笑むことも、一つだと思えます。まず、そのすべてを受容・共感することでしょうか。本当の意味での温かさで、子どもの思いに寄り添っていたらと反省しました。そして、そのあとに一緒に考えていたら、子どもは満たされ、しっくりと、心に頭に落ちていたかもと感じました。  
(文責 松山充彦指導員)

意思(いし) ⇒ 意地(いじ)  
徳(とく) ⇒ 毒(どく)  
口(くち) ⇒ 愚痴(ぐち)

### 編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903 FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>

